



夏休み以降、これまで南極に行ったことがある方とお会いして、お話を聞かせていただいたり、南極に関する本を図書館で借りて読んだりして、少しずつ準備を進めています。

皆さんからもたくさん声をかけていただきました。「先生、いつ行くの?」「夏休みに南極に行って帰ってきたんだよね?」「南極まで何日かかるの?」などの質問をよくされました。この夏、オリンピックの舞台になったリオデジャネイロは、日本から見てちょうど地球の反対側ですが、そこまで飛行機で2~3日かかったという話を、テレビでもよく耳にしました。さて、南極までは何日間の旅になるのでしょうか?



東京から南極の昭和基地までは、直線距離で約14,000kmです。ここまで自衛隊の砕氷船『しらせ』で約3週間の船旅になります。11月11日に観測隊員よりひとあし早く『しらせ』と乗組員さんが東京の晴海埠頭を出港します。私たちは11月27日に成田空港から飛行機でオーストラリアのブリスベン、さらにパースを経由し、フリーマントル港で『しらせ』に乗船して昭和基地を目指します。やがて南極の暴風圏を抜け、海氷域に達すると、世界有数の砕氷能力を持つ『しらせ』が本領発揮し、南極の分厚い氷を割りながら進むのです。

東オングル島にある昭和基地には12月の中旬に到着する予定ですが、そこに岸壁はありません。安定した氷の上に船を接岸させるのですが、これができない年もあり、その時々海氷の状況次第なのだそうです。圧倒的な自然の威力を感じますね。基地の近くに接岸できるかどうかは、その後の計画遂行に大きく関わってくることです。無事接岸を皆さんも祈ってくださいね。



砕氷船「しらせ」

しらせの航路



みんなでつくる

南極通信

南極で見てきて欲しい事のリクエストをいくつかもらいました。どうやって実行するかを検討しているところです。

また、夏休みの自由研究で、南極について調べてきてくれた人もいました。様々な視点から調べ、とても分かりやすくまとめられています。1階廊下のコーナーに『南極大解剖!』のタイトルで掲示していますので、ぜひ見に来てください!



わたくし
フゾク
ペンギン
が御案内
します